

刊夕日十三月九



定額 一五五元 一月五拾元 三月一五拾元 半年二八拾元 一年五拾元
 日曜 休日の翌日休刊
 發行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

或る日の會話 (四)

眞 繼 雲 山

佛。さうはゆかん上は大正から下はお前たち出けらに至るまで一切合切残らず迎へ取つてやるが、わしの役目……。いやさ、わしの慈悲ぢやと思へ。凡。何といふ恨めしいお慈悲で御座います。どうも合点のゆかぬお慈悲で佛。左れば！このわしの慈悲あればこそ一切の有情は永生に到るのぢや。不景氣な娑婆の假相にコビリ附いてゐたのでは到底死なぬ世界に超出することは出来ん。凡。如何いたせば超出できるの御座いますか。佛。悟りを聞いて段々と堅に登つてゆくが堅超ぢや横さまに一足飛びに渡り切るのが横超ぢや。凡。左様にして首尾よく超えました曉は？佛。そこが不生不滅の一境ぢや。凡。その一境に到れば、死なずに済ませうか？佛。さうとも。凡。けれども、お釋迦さんでも祖師方でも皆んな死なれたではありませんか佛。うん、あれは肉體の話

ぢや。肉身は滅しても心は死なん。なぜ死なんかといふに、本来の面目、本然の相そのまゝが覺者の生命ぢやからのう。不生不滅といふは、生ぜざる故に滅せずぢや。お前たち凡夫共は、生れたと思ふておるから。死ぬるといふことが有るんぢや。凡。な、な、ナル……。でもお釋迦さんでも肉身が無くなる時は矢つぱりいやであつたでせう。佛。アハ……。苦惱は迷へる者にだけある。肉身がなくなつてもそれに伴ふ苦みが抜けたなら死も亦た破顔一笑ぢや。死ぬのがいやなのではない、死にともないと云ふ苦みが苦いのぢや、その苦みが抜けたなら、お前もそれで文句はあるまいが。アーン。不死の法といふは、肉身の滅せぬ工夫ではない、滅しても苦しうない、死も亦た至樂といふ分別ぢや。それを假りに悟るといふんぢや。



母の愛を詠む

高 木 潮 村

ほろ蚊張の繕ひ急ぐ母そは、蠅うるさしと子をし思へば泣きやまぬ子の熱見ては抱きしめて
 夜更の街に子守唄歌ふ敷入に歸り來るらむ子を待ちて
 好きな物をば早や買ひてあり
 夜長さに衣ほどきしたらちねの
 母は喜べり子の伸びゆくを水筒を買つてとねだる子供あり
 たしなめつゝ通る玩具屋の前

正統メガネ
 無料検眼
 各眼科院御用

外科

門 專 X
 科 線 光
 上田外科醫院
 平町 南町
 電話二一九番

お商用ニ
 タクシー電 五六九
 六三二
 ドライブニ
 イワキタクシー

十月第一週超特別大興行
 二日より堂々公開の大番組

米國大パラマウント社超大作
 一年唯一作の巨豪笑への名映畫
 ハロルド・ロイド主演バァー！パラケント嬢助演



ロイドの危険大歓迎
 問題の支那に之れは又大問題を惹起して遂に上映絶對禁止された其れ程問題の笑への名映畫……
 大作十一卷

東亞キネマ特作時代劇 山口好幸監督
 戦法奇兵隊 十二卷
 青柳龍太郎、市川龍雄、木下双葉共演

新興キネマ超特作時代劇
 人斬新兵衛 十卷
 河津清三郎 大熱演

皆様の慰安殿堂 有聲座

念記年週一店開

謝恩抽籤附大賣出し
 ◎期間 十月一日より八日迄
 ◎方法 御買上高五圓毎に抽籤券一本進呈
 何卒此の機を逸せず御買上の程お勧め致します
 【二金五圓に對し】
 一 等 五割引 二 人
 二 等 四割引 一〇 人
 三 等 二割引 二〇 人
 四 等 一割引 一〇〇 人
 全部空籤なし(但賣切れ次第ハ切)
 其他金額の多少に不拘御買上の方には記念品を差上げます
 山崎時計店
 平町五丁目新川町通り
 吉田屋染物店向ヒ

文具破格特賣

白運動靴 五十錢 九半以下
 六十五錢 九七以上
 半額、三割引、二割引
 平野前 マルカ運動具部
 電話三十二番

花柳病科専門

木村科醫院
 入院自炊の便あり
 平町五丁目橋際
 電話三〇九番

智識階級の就職先は

全く絶望の悲觀状態

平職業紹介所悩まされ 地方失業問題憂慮さる

名案を講究中

智識階級の失業者救済には各紹介所共極度に悩まされてゐるが平職業紹介所でも二三年越しの之等の求職者が七八十名に達し係員が極力各會社官衙方面に紹介してゐるも殆どお先真つ暗な悲觀状態にあり目下名案を講究中であるが何時職業にありつくことやら地方失業問題として非常に憂慮されてゐる

赤井の村長

一般に注視

石城郡赤井村長は目下缺員中にあり前根本村長の再選は村政運用並に周囲の事情から困難と見られ若松美三、草野三郎兩氏が最も有

陪審員資格者

あすから縦覧

本年度における平町の陪審員有資格者は豫ねて町役場にて調査中であつたが此の

十日に抽籤

本年度における平町の陪審員有資格者は豫ねて町役場にて調査中であつたが此の

季節の移る

心は澄みゆく

清算される風物

展ける秋の感觸

九月から十月へ——そこに我々は夏から秋への季節の移動をはつきりと感ずるのだ、九月——それはまだ清算し切れなかつた夏の風物とやちやく擡頭し始めた秋の風物とが混濁して、や鈍つた太陽の下に晒され

程完了明一日より一週間役場前に掲示する筈であるが全部で五百十四名昨年よりは二名の減であるとの尙之れが抽籤は来る十日に行ふことになつた

故高野教諭

既報平 弔慰金贈呈 商友會

が募集中であつた故高野教諭遺族弔慰金は昨二十九日切つたが總計二百二十九圓四十一錢に達したので直ちに之を遺族に贈呈した

平役場移轉

元平商跡へ

平町役場の移轉問題は既報の如くいよいよ具体化し舊商業學校舎の位置を變更し内部の模様替をなし金をかけずに引越する筈で縣議戦直後に模様かへに着手した總工費は僅々五百圓の見こみでおそくも来る十月廿五日頃までには移轉する豫定である

今日の話

彼は樂天家だつた。非道い洪水ですつかり水に浸つた家の根屋に上つて、ゴーゴーと渦いてながれる濁流を眺めてゐた。すると友人が一人ボートを漕いで彼の所へやつて来た。友人「今朝は君とこの島はみんやられたんだらう」

彼「あゝ、だが家鴨はおよげるからねえ」
「林檎の木もすつかり流されたんだね」
「さうさ、ただ枯木になつて残つてたつて仕方のない話さ」
「オイ、見給へな、君とこの窓がすつかり浸つちやつたせ」
「結構な話だよ。あれやあもう洗はなきや仕様がなくなつてたんだから」

陸相に上申書

比佐氏の選舉運動

陸軍參謀官比佐昌平氏は今回の縣議戦に際し郷里に歸つて同志の爲め推薦狀の配布並に應援演説などをなした。これに對し平町民政黨員猪狩千勝氏は「身荷しくも軍屬にありながら殊に日支兩國間の風雲急を告げてゐる時に際し慢然選舉運動に身を投げてゐるは之れ明から知る街の若人の樂しみである」

逐年増加

今回は三十名

來月一日より一週間に亘つて福島市に於いて執行される本縣の自動車運轉手試験に平署管内よりの受験希望者は甲種希望が十人乙種希望二十人計三十名であるが希望者は逐年増加しつつある

石城瀨取引状況

四倉瀨市場(廿九日)
(白瀨)五〇三貫(最高)二圓七十六錢(最低)二圓五十一錢(馴)二圓六十四錢

平町人事

△新出 山下庄三郎氏長男

△南町六七 裕島昌三男利雄
△二丁目 當時石城郡小名濱町字中
坪四二貫 柄徳太郎氏三女ミサ

△六人町一 阿部安之丞(六八)

縣議戦の跡を顧みて

永山勇吉

今度の縣議戦の白眉は、何といつても野崎、萩原の抗争を中心とした石城民政部會の亂闘であらう。先に漆畑を會長とする野崎派の石城部會が、早くも一名の候補者を擁立するや、萩原一派の石城部會は、比佐陸參閣下を引つぱり出して日夜對策。この間或は萩原出馬せずと云へ、或は決心したりと稱し、立つが如く立たざるが如く傍人をして容易にその憶測を許さなかつた。

いよいよ政戦たけなはの九月十八日夕刻、東京電報は俄然日支交戦の報を傳へ國交日に危急を告ぐる時、比佐陸參閣下は泰然として萩原候補の應援演説會に臨み、聚樂館の壇上にその勇姿を現はしたといふ。その頃迄の野崎は最高點の聲全郡下に漲り、彼の力は今更年ら世人の耳目を驚かしたものであつた。このまゝに進めば落選の憂目を見るものは、結局草野か萩原か、萩原か田子か。然し選舉はそこが水ものである果せる哉九月廿日頃に至つてさしも平和な野崎の事務所に、苦戦の報頻々各町村の選舉委員は顔を青くして飛んで來た。只力を以て戦線に立ちし野崎は今更年ら金なし候補の苦痛を、しみじみ味つたといふ。

外科 X 光線科
性病科
外科

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

入院隨意

平町の無効投票に 達筆なる落書

不真目さに立會人が呆然 郡内を通じて無効一分強 成績は良い方

石城郡における今回の縣議選舉で無効と決定した投票は三百五十一票あつたがその無効の内訳をみると何人か判断出来ないものが百票、他事記入：加藤清正さんと落書したもの：八十九票、候補以外の名比佐昌平君へ等と書いたもの五十五票、白紙が四十七票、候補者の名刺を貼つたもの、肩書したものの等九票又は三角を書いたもの三十四票其の他正規の用紙を用ゐないもの等々であるが總投票數三萬八千七百二十票に比較すると約一分強にしか當らず成績は良い方であり更に

内譯をみると何人か か判断出来ないものが百票 他事記入：加藤清正さんと 落書したもの：八十九票、 候補以外の名比佐昌平君へ 等と書いたもの五十五票、 白紙が四十七票、候補者の 名刺を貼つたもの、肩書し たもの等九票又は三角を 書いたもの三十四票其の他 正規の用紙を用ゐないもの 等々であるが總投票數三萬 八千七百二十票に比較する と約一分強にしか當らず成 績は良い方であり更に

無筆者と思はれる者 が書いた、判断のつかない もの、或は書けずに投函し た白紙を差引けば無効は極 めて少ない事となる譯、又 無効票の多いのを見ると、 内郷村の八十一、平町の三 十、湯本の二十九、好間の 二十、小名濱の十八、赤井 勿來、四倉の各十五等であ るが内郷、湯本、好間等は 炭礦 勞働者が多く、勿來 四倉、小名等は漁夫が多い

八日午後二時十分頃平區裁判所門前で暴漢のために棍棒で殴打され右手上腕部頭部その他に全治二週間の打撲傷を受けたが暴漢はその場を逃走した原因は破産した磐越銀行の債權者と係争中であるところからこれに關係せるもの、所爲と睨み犯人捜査中

石城三大礦

石城郡選手權大會 秋のスポーツ界の覇者各炭礦合同の陸上競技大會は恒例により十一月三日平町磐越中學校庭に開催されるので磐城入山、古河の大炭礦は目下猛烈な練習を行つており近く選手決定を見る筈で入山炭礦では十月四日これが豫選をかねて従業員慰安の運動會を開く尚磐城炭礦も十月中旬開催の筈

瀧澤俊平氏を 暴漢が毆打 裁判所門前で 債權關係の所爲か 平町堂の前二〇元磐越銀行支配人瀧澤俊平(三)は二十

花柳病に むしばまれた体 防風林にブラ下る

石城郡小名濱町宇古港小野直次郎(四)は昨年六月梅毒の爲めに痲呆状態に陥り半身不随となつた爲め世を悲觀し去る廿七日午後十時同町海岸防風林にて縊首を遂げたるを家人が発見した

女給へ商賣換 無断で飛出す 茨城縣多賀郡磯原町宇丁の倉川澄健吉の内縁の妻須藤ト(七)は本年六月前記川

大きな拾ひ物 金千圓也 平驛待合室で 石城郡飯野村南白土請負師直井藤太郎氏は本日午前九時ごろ平驛待合室にて金千圓在中の財布を落し捜索中平町胡摩澤一二五金澤常吉(三)氏が拾得驛長に届出てあつたことが判り無事千圓を手に戻した

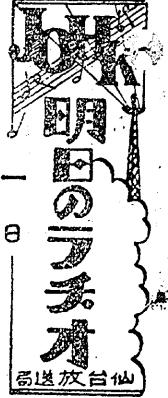
全國大會の 豫選會に出場 平署の猛者連 第三回全國警察官武道大會は十月廿二三日の兩日東京牛込の陸軍戸山學校に行はれるので近く福島市に此が豫選會を行ふが當日は縣下各署より粒選りの猛者連が三名宛出場する事になり各署共目下選手を豫選中であるが平署に於いて審査した結果柔道選手は古山、宮内、今野の三氏剣道は鈴木、室井兩氏と決定したので來るべき福島市の豫選會を期し各選手共目下猛練習中である

赤井嶽で 御詠歌大會 参加者勧誘中 赤井嶽では來る三日午前十時から十二時將銅像建立四周年參拜記念第二回御詠歌大會を開催することにになり参加者勧誘中であるが當日は本山遍照、大谷日有兩師の講演もある筈である

全國通信競技會へ 平驛の北野君選抜 大毎、東日兩社主催 東鐵管内の選手に決定

無免許牛馬商 石城郡湯本町宇三國居住宮城縣栗原郡金城村生れ食肉營業武田謙(三)は牛馬商の免許を受けず馬の賣買仲介を爲したる事發覺牛馬商違反として平署に於て取調中

破産から發狂 石城郡湯本町宇向田神長倉末吉(五)は某銀行の破産で虎の子の預金がブイになつてから時折發作的に家中を暴れ廻るので家人が監視中昨夜八時頃又も暴れ初め家人も手を餘して目下平署に押送



明日のラジオ

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) 童謡劇「となりの者」J.O.A.R.唱歌隊
後六、三〇 英語講座「初等科」(八) 岡倉由三郎
後七、三〇 講演「寄生虫病豫防に就て」松本學
後八、〇〇 ラヂオレヴェ

明日の部

前九、一〇 料理献立「魚類汁」こんやくの關東煮
前一〇、三〇 家庭講座

「插花の道の紅葉に就て」 小島泰次郎 一二、〇〇 運動競技「野球リーグ戦」 後〇、〇五 管絃樂と木琵琶 後二、〇〇 講演「裁判の使命」牧野菊之助 後六、〇〇(子供の時間) 後六、三〇 英語講座「中等科」第二講の二 トーマスライエル 後七、三〇 「小兒保險の夕」講演とラヂオドラマ

平映畫界

平館……明日からメーテルリング原作ラ社特作の「青い鳥」市川右太衛門二役「赤穂浪士」一番槍柳さく子飯田蝶子「夜ひらく」
有聲座……二日から「ロイドの危険大歡迎」青柳龍太郎「戦法奇兵隊」河津清三郎「人斬新兵衛」

東京日日、大阪毎日新聞 社主催による全日本通信競 技會は來月十四日午前十時 より大阪中島公會堂に於い て舉行されるが全國の新聞

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

小説 七五七

(四十八)

【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

蝴蝶の宿 (9)

「ちよいと、若旦那。」
「なあんだ」

飲みつづけたアブサントの酸酔であらう、異様の臭気が芬とその口から散つた。歌治は思はず顔を反けた。

「俺の体に障つてくれるなよ、慥然とするから。」

「あら、そんなに私が、きき嫌ひになつたの。」

堪らないほどの感傷を興へさせられた歌治は、ぐつと混上げて来る涙を抑へ切れなかつた。

「あなた、お願ひですから兎に角此處を切揚げてお宅へ歸つて頂戴よ、ね、若旦那、お宅ぢや今は、大旦那が御病氣でそれにいろ／＼取込事ができてゐるのよ。所がね奥さんは……」

「五月蠅いなア、奥さんがどうした。親父の病氣は今に始まつたことぢやないやい。取込事は年中有るんだよ。そんな取込事に俺が、一々歸つてたまるものか。親父の病氣なら心配することはないよ。俺が歸る時分にはちやんと全癒つて居るよ。五月蠅い奴だ、そんなことなら俺はなか／＼歸れないよ。もうよく解かつたからお前歸つても宜いよ。なん

だそんな事だらうと思つたんだが……」
「然うぢやないの、困つちまうね、酔ばらつてるんだから始末にいけないわ、ちよいと、よく聞いて下さいよ。」
「解かつたよ。よく聞いたぢやないか。この上に幾く

「如何することも出来ないつて、だから私ほんとに困つたは。ちよいと、若旦那いゝかげんの取込事ぢやないんですよ。大變なんですよ。」
「宜いよ。お前の大變はお前だけだよ。俺の方ぢや一向そんな大變は大變と思つて居らんよ。」
「でも若旦那、その大變はあなた御承知、ありませんよ。」
「御存知ありますよ。解つて居りますよ。」
「そんならどんなことでございませうか。」
「親父の病氣さ、その病人



ら聞いても同じことだ。何にが俺は酔ばらつてるもんか。よく解かつて居るよ。お前の御親切は、親父が病氣で家に取込事があると云ふんだ。これ以上解かつたところが今俺には如何することも出来ないんだ。」

がぐづ／＼言ひ出したので大變なんだらう。定まつて居るさ。」
「いゝえ。そんなことばかりぢやないことよ。大變なことですよ。」
「なか／＼想はせぶりがうまいね、だが俺はうつか

りその手にや乗れないと言ふんだ。どうゆう大變な事ぢや。」
「よくお聞き下さいよ。お宅ぢやね。今生憎お嬢さまがお一人限りなもんだから……」
「やかましいッてば、早く歸つていけ、そのお嬢さまがお一人でどうしたと言ふんだ。遊びの邪魔に来たのかッ。ささまは。」
「いゝえ、然うぢやないッてえことよ。私あんまりお氣の毒だから見るに見かねてお迎ひに来てあげたのよ。まア何んでもいゝから私と一緒に歸つて頂戴よ。後生一生のお願ひですからさ。ちよいと、若旦那ッてば」
歌治の心は燃えてゐた。突と手を執つて力まかせに曳起すと源之助は、ひよろ／＼と五六歩駆け出してから踏止つ言つた。

毛糸と編物用具

全部新色二一三
入荷致しました
相變らず御用命の程……

平田町
ハシモトヤ
糸店

十月一日より 毎六日 間晝日



全世界的英雄篇

作大の朽不古千クンリルテーマ
るたし浴に榮光的對絶の演講前御
説解別特 氏勝最崎宮

館 平 通普料場入御

天才少年 ローピン、マクドールガル氏
天才少女 チューラ、ベル嬢 熱演努力の結晶

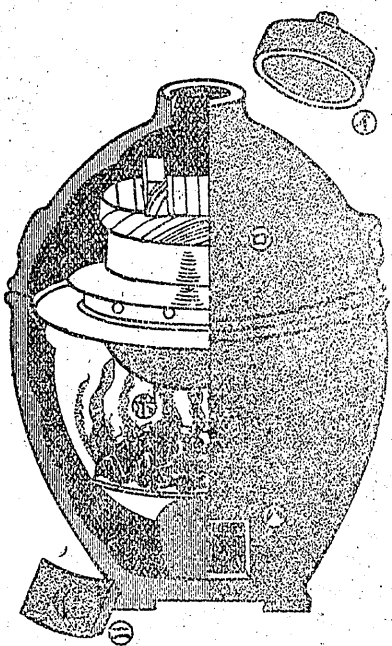
◇畫名◇

青い鳥

チルチとミチルの二人の子供が永遠の幸福の象徴である青い鳥を探して
嶮難な人生の旅を経て已の運命と闘ひ生死と誘惑との境を越えて來なけ
ればなりません、未來の國幸福の御殿常暗の國墓場等を奇怪な妖女の住
む所も巡つて來ましたが青い鳥は見つかりませんでせう……
チルチとミチルの青い鳥は一体どこに居るでせう……

小鍛治式極東ムシカマド

新案特許
第一三五二一號



製造販賣元
小鍛治商店

三平 電三番

◎本品にニセ物有小鍛治式に御注意